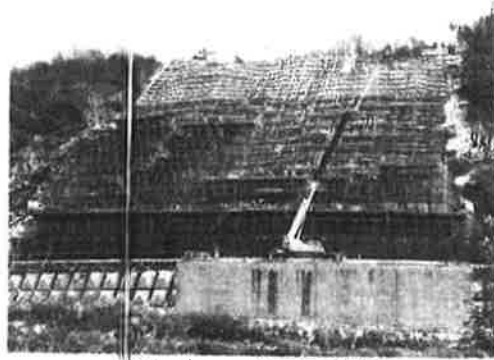


## 建設業 日綜産業

# 作業構台用ユニット足場

# 宮城で法面現場見学会



マルチアングル工法の現場

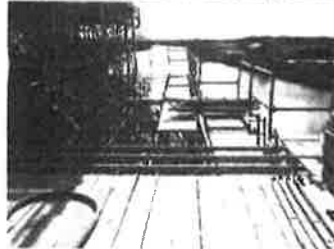
法面保護工法に強みを持つ「陽光建設」本社「宮城県仙台市、邑上和也社長」と「日綜産業」はこのほど、宮城県登米市の「丸森災害防除工事」の見学会で、日綜産業の法面作業構台「マルチアングル工法」を全面的に使用した現場を公開した。永久的な法面対策では、「大規模ほどメリットがある」(陽光建設の石崎正剛熟練技師)と言い、今回の工事では同工法が約200㎡使用されている。「解体工期が早く、人手も従来の半分で済む」という同工法は、安全性の確保とともに人手不足に悩む建設現場に画期的なアイテムとなりそうだ。

## 大規模工事にメリット

陽光建設が採用した「号KPT-160136」作業構台用ユニット足場「マルチアングル工法」(NEP-1S特級番号)は、日綜産業が「アンカー工事やボーリング工事での削孔機など」を配備する機械構台として使用する足場として、約18年前に開発し



トラス・ビームとテレス「根本ユニット」の平坦な足場で安全性確保



の特長は、ハンマード本で組み立て・解体が容易にでき、組み立て後の重機や削孔機などの振動によるクサビの緩みはない。アンシユレーションの多い場所でも多様な接点部材で柔軟に対応可能で、かつ各部材は軽量化・最少限の大きさにより、人手による運搬が可能。手すり、幅木が設置できるため安全性と環境性の向上にも寄与する。システム式で構台の盛り替えも楽にできる。

たクサビ式足場支保工のニッソーSSシステムと利点を活用し、新開発した製品。これまで単管クランプで手間と時間をかけて製作していた構台足場を、より簡単に安全に施工・盛替えできるように改良。法面はさまざまな材質(コンクリート・土質など)であり、現場によって強度計算や図面が変わってくるが、同工法は

接点部に①打ち込みタイプ②角度自在タイプ③フラットタイプを用意し柔軟に対応している。現場作業を担当する有賀組(本社「山形県鶴岡市、有賀哲社長」)の蛸井寿昭・営業取締役はマルチアングル工法について「出来栄、作業安全性、効率性の良さが確認できた」と利点を語る。マルチアングル工法

今回の工事内容は施工延長176.2m、吹付枠工(梁断面300×300)A11596平方m(L11906.3m)、吹付枠工(同600×600)A112718平方m(L11377.1m)、鉄筋挿入工(D19、L113

・0)N11478本、アンカー工(L11885・19・85)N11220本、足場工(アンカー足場)V116150空立方m、現場吹付ソイルセメント吹付A11約1570平方m、V11268立方m。日綜産業では法面事業部を16年に立ち上げており強化分野と位置付ける。同社では「クイックデッキ」に続く新製品として、今後さらに拡販を目指す方針。